

# 令和2年度施策評価 総括表

第5次総合計画 前期基本計画 : 平成28年度～令和2年度

## 基本目標3 誰もが安心して幸せに暮らせるやすらぎのまち

施策コード/施策名	実感指標 客観指標	H27 当初値	R1 実績値 R2 実績値	R2 目標値	施策実現への 取り組み	施策実現への 進捗状況	施策における総括		
							前年度までの課題	今年度の取り組み(成果、効果)	次年度以降に改善すべき課題
3-1-1 健やかでいきいき暮らす 健康づくりの推進	運動や食事など自分の健康に気をつけている町民の割合(%)  ①胃がん検診の受診率(%)	64.8  ①20.7	78.8  ①13.4	↑  ①35.0	②取り組まれているが、まだ改善の余地がある。	③進んではいるが、スピードが遅い。	特定健診では、定期通院中の方や40～50代の健診未受診者が多く、更に個々に合わせた勧奨の工夫や、受けやすい健診の環境づくりが課題。また、生活改善や重症化予防を目的とした保健指導の強化を図る必要がある。健康意識の向上については、若い世代からの健康教育や啓発が重要であるため、新型コロナウイルス感染症の感染予防対策を徹底し、様々な工夫を講じて実施していく必要がある。感染症予防では、引き続き新型コロナウイルス感染症に関する正しい情報の発信とともに、10月から開始のロタウイルス予防接種に向けて、わかりやすい周知を徹底する。	新型コロナウイルス感染症の感染対策を徹底しながら健診事業を実施し、個別医療機関での受診勧奨やWeb予約の導入などにより、大幅な受診率の減少は抑えることができた。また、ロタウイルスを含む定期接種の啓発を行い新型コロナウイルス感染症による接種控えを防いだ。新型コロナウイルスワクチン接種事業では、全町民を対象とするため、全庁的な組織体制をつくり、令和2年度中に広報やコールセンターを設置し、接種に関する問合せなどの対応、また町内医療機関との協力体制を進めることができた。	新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため、健診の受診控えによる健診受診率の低迷や疾患の重症化等が予想される。集団健診での感染予防対策の徹底はもちろんのこと、受診しやすい環境づくりや未受診者対策への取り組みを強化していく必要がある。新型コロナウイルスワクチン接種事業では、国からのワクチン供給量が不透明であるなかで、町内医療機関の協力だけでは十分な接種計画を立てることが難しく、問診医の確保が課題である。また全国的なワクチン接種の推進であるため、マイナンバーを活用したシステム等複数のシステムのデータ連携が不可欠であり、安全で適正なシステム管理が必要とされる。
3-2-1 安心して子育てできる 環境づくりの推進	子育て環境が整っていると思う町民の割合(%)  ①ファミリー・サポート事業の全会員数に対するまかせて会員数の割合(%)  ②地域の公民館等における親子サロンの開設数(か所)	34.5  ①30.7  ②10	44.4  ①32.3  ②7	↑  ①33.2  ②15	②取り組まれているが、まだ改善の余地がある。	②計画どおり順調に進んでいる。	仲原保育所・中央保育所など、老朽化している施設の建替えについて検討を進め、安心安全な保育環境の整備に努める。それに伴い、今後の保育所、園児の減少が続いている幼稚園の在り方の検討。また、保育内容の充実と、園児の健やかな育ちのために不足する保育士確保。子育て中の保護者へ、様々な子育て支援サービスの情報を周知していく方法の検討。新型コロナウイルス感染症対策の更なる徹底をおこない、園児の感染防止に努める必要がある。	町立保育所及び幼稚園では、感染症対策の消毒液の購入や空気清浄機の設置を行うとともに、私立保育所等に対しては感染症対策の補助金を支給した。保育士の求人サイトにて保育士募集を行ったものの、保育士不足の解消には至らなかった。老朽化した施設の営繕管理に努めるとともに、中央保育所の建替を検討し決定した。かよいちょう保育園の開所により、待機児童数を減少させることができた。	新たに保育士就職セミナーを開催し、保育士確保に努める。園庭に新設する中央保育所の建替と、西幼稚園の長寿化を行うための設計を実施するとともに、改修等の必要な箇所の営繕に努める。こども館では、児童虐待等の発生を防ぐために関係機関との連携を強化するとともに、新型コロナウイルスの感染防止対策を徹底し、多くの幅広い年代の子どもたちが来館し参加できるような内容の充実を図っていく。
3-2-2 子どもの健やかな成長 を支える支援の充実	妊娠・出産期における支援が充実していると思う町民の割合(%)  ①2歳児歯科健診受診率(%)	19.5  ①93.3	24.5  ①92.8	↑  ①100	②取り組まれているが、まだ改善の余地がある。	②計画どおり順調に進んでいる。	発達に関する住民ニーズは継続して高く、相談者の悩みに出来るだけ早く対応できるよう、相談員の増員を図る必要がある。また新型コロナウイルスの感染状況により、今後も事業の縮小実施や延期、中止などが発生すれば、個別対応やホームページでの情報発信など、育児不安や虐待に繋がらないよう、様々な工夫や対策を講じる必要がある。	発達相談に関して、相談員を増員する体制は整えたが、専門職の採用希望が少なく、相談員不足の状況が続いた。緊急事態宣言中は乳幼児健診や療育事業を中止せざるを得なかったが、振替健診や感染予防対策の徹底による事業再開、ホームページを利用した育児支援を行った。新型コロナウイルス感染症に係る経済対策としてかすやっ子応援事業を実施した。	発達相談を担当する専門職の相談員の雇用について、雇用条件等を見直し、応募者を増やすことが必要。重要な乳幼児健診の機会は今後も確保する必要があるが、変異株の出現等で集団健診に不安を感じる保護者も多いと思われるため、今後も徹底した感染予防対策を行いながら来所者が安心して受診できる環境づくりを行わなければならない。
3-3-1 元気高齢者の活躍を促す 環境づくりの推進	元気な高齢者が活躍する場があると思う町民の割合(%)  ①ゆうゆうサロン参加高齢者数(人/年)  ②ゆうゆうサロンボランティア登録者数(人/年)	25.7  ①16,087  ②237	36.3  ①1,234  ②255	↑  ①19,400  ②260	②取り組まれているが、まだ改善の余地がある。	③進んではいるが、スピードが遅い。	老人クラブやシルバー人材センターの活動の活性化を図り、高齢者が元気に地域で社会参加できる機会を持つよう支援していく。ゆうゆうサロンでは、新たな参加者の開拓やボランティアの担い手が不足しているため、広報等を通じて啓発が必要である。	新型コロナウイルスの影響により、老人クラブの趣味・健康活動や新規会員獲得の為の勧誘活動が十分に行えなかった。また、シルバー人材センターの会員数は微増しているが、老人クラブの会員数は減少している。ゆうゆうサロンは新型コロナウイルスの影響で1年を通じた活動を行うことができなかった。休止中はボランティアや指導員による電話や訪問、手紙の送付を行った。	行政区主催の敬老会、シルバー人材センター及び老人クラブへ補助金を支給し、活動の活性化を図る。シルバー人材センターや老人クラブの加入者が増えるように、補助金を支給するだけでなく、啓発活動にも力をいれていく。ゆうゆうサロンについては、コロナ以降の参加者の減少や体力の低下に備えた内容を考慮して実施する。

